



大分県は土砂災害危険箇所数が多い

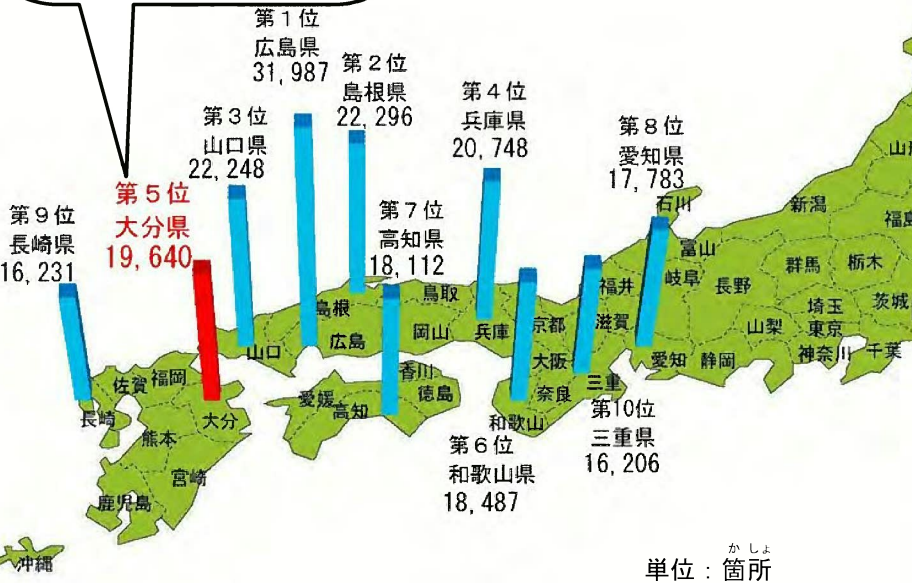
おおいたけん どしゃさいがい

# 大分県の土砂災害

おおいたけん どしゃさいがい きけん かしょう おお  
大分県は土砂災害危険箇所数が多い！

どしゃさいがい きけん かしょう  
全国の土砂災害危険箇所数(上位10県)

全国で5番目に多い  
19,640箇所

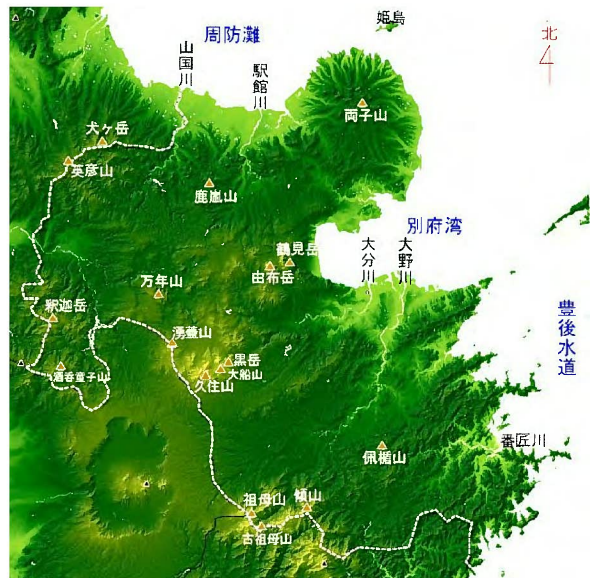


おおいたけん さんち おお  
大分県は山地が多い！

どしゃさいがい  
土砂災害は「山」で起こる災害なので、  
大分県のように山が多い県では、  
どしゃさいがい  
が起こるかもしれない危険な場所が多い！

日本全国でみると、山地の割合は国土面  
積の約6割ですが、大分県だけを見ると  
約8割にもなります。

総務省：都道府県、地形・傾斜度別面積より



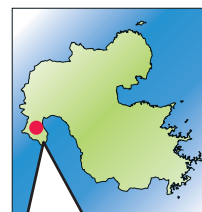


# さいがい 大分県ではこんな災害がありました

## どせきりゅう 土石流

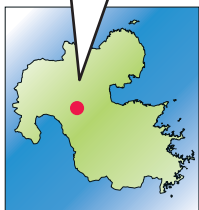


土石流の直げきで人家が2戸こわれた



ひたし かみつ えまち かみのだ おかばるかわ  
日田市 上津江町 上野田 (小川原川)  
ばい うぜんせんごう さいがい  
平成17年7月 梅雨前線豪雨による災害

くすぐんこのえまち ゆつぽ だいにじそうばるがわ  
玖珠郡 九重町 湯坪 (第二地蔵原川)  
ばい うぜんせんごう さいがい  
平成17年7月 梅雨前線豪雨による災害



## さいがい たいけんだん 災害の体験談

九重町大字町田  
甲斐武鬼さんの話

前日から雨は結構降っていたが、さほど気にもせず就寝してしまいました。午前3時過ぎでした。床上浸水です。電気はつきませんでした。外を見ても辺りは暗くてよく分かりませんでした。

サッシの下段、中程まで水がきていました。戸も開けられず、外にも出られず、家族7人1箇所に集まって、ろうそくの灯りで夜が明けるのを待ちました。ほんの2時間程度でしたが、とても長く感じました。外の様子がはっきり見えてきて、驚きと怖さをひしひしと感じました。皮のはげた流木が窓ガラス寸前で止まっていた。

今回の災害の教訓は「絶対安心はない」。私の家は以前、県道より下流側の川のそばにありました。年に数回、河川の増水で庭に水が上がることもありましたが、昭和57年、今の土地に住居を移し「絶対安心」と思って暮らしてきました。まさか家に木が流れて来るとは思ってもいませんでした。

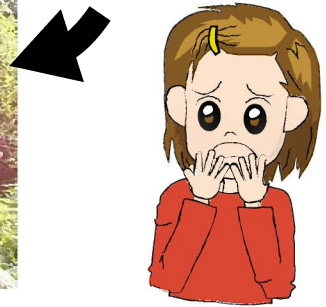
今後、今回の体験を時々思い出し家族で気を付けたいと思っています。



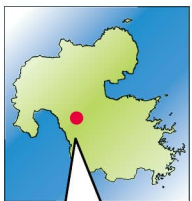
くず  
がけ崩れ



岩ばんの落下による人家への直げき  
たけ た し あいあい だいに みさごちく  
竹田市 会々 (第2三砂地区)  
平成17年11月 長年の風化による落下



くず  
しゃ面が崩れ、人家をこわした



くす ぐん このえまち すがわら きる ぎちく  
玖珠郡 九重町 菅原 (桐木地区)  
ばいりう ぜんせんごう  
平成20年6月 梅雨前線豪雨による災害



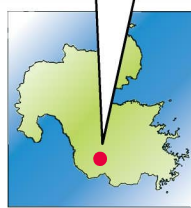


じ  
地すべり

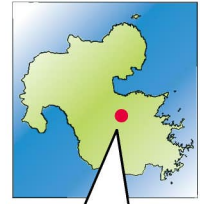


たけ たし つぎくら せのくちちく  
竹田市 次倉 (瀬ノ口地区)  
平成17年9月 台風14号による災害

地すべりにより大きく  
流れ出した土のあと



地すべりにより  
山に段差が発生



おおいた し かみづめ おくちく  
大分市 上詰 (奥地区)  
平成17年9月 台風14号による災害



ちしき  
ミニ知識

その他に大分県で大きな地震災害が起きた記録などものこっています。  
そのときの大地震の話は「瓜生島の伝説」として今も語られています。



うりゅうじま でんせつ  
瓜生島の伝説

現在の太分市の西太分港付近に沖ノ浜港と呼ばれる所がありました。この沖の浜港の事を「瓜生島(うりゅうじま)」と呼んでいたといわれています。  
太分県は島が多く、北は国東半島の姫島、南は佐伯市の大入島などがあり、別府湾にも島がいくつもありません。  
民話によれば、この島にはえびす様がまつられていて、「えびす様の顔が赤くなると災いが起きる」といわれていました(ただの仏像であるという説も)。  
ある日、ある若者がそのえびす像に赤い色をぬるいたずらをしてしまいます。  
これを見た島民は当然のように「災いが起きる!」と大さわぎとなりました。  
若者はこのさわぎを見て大笑いをしていました。  
ところが、島民の不安は的中し、慶長(けいちょう)元年7月12日(1596年9月4日)の午後2時~4時に別府湾を中心に大地震が発生。  
この時、馬に乗った老人(えびす様の化身)が現れ、早く島から逃げるように言います。  
赤い色を塗った若者も船に乗って逃げようとしてますが、彼はいたずらをしたためか瓜生島とともに海底へ沈んでしまったといわれています。  
また、ルイス・フロイス神父(当時日本に訪れていたポルトガル人宣教師)の報告に「日出町から佐賀関町の間も一部沈没した」と被害がすさまじかったことが記されています。